

9世紀バグダードのガレノス研究： フナイン・ブン・イスハーク『ガレノ ス著作の翻訳についての書簡』翻訳（1）

矢口直英*

解題

本稿はフナイン・ブン・イスハーク著『[著者の]知る限りガレノスの著作のうち翻訳されたものと翻訳されていない幾つかのものについての、アリー・ブン・ヤフヤーへの書簡』(*Risāla ilā 'Alī ibn Yahyā fī dhikr mā turjima min kutub Jālīnūs bi-'ilmi-hi wa-ba'd mā lam yutarjam*, 以下『書簡』)の翻訳である。

9世紀に活躍した東方（ネストリウス派）キリスト教徒のフナイン・ブン・イスハーク（Hunayn ibn Ishāq, 西暦873年没）¹は医者として活動する傍ら、何処か（一説によればアレクサンドリア）で学んだギリシア語の知識を駆使して、ギリシア語の文献をシリア語およびアラビア語に翻訳した。彼の翻訳は極めて高く評価され、宮廷の重臣たちに文献の翻訳を依頼されるなど翻訳者としての名声を得た彼は、アッバース朝第10代カリフ・ムタワッキル（al-Mutawakkil, 在位847-861年）の時代に翻訳者集団の監督を任されることとなった。その中には、フナインの息子イスハーク・ブン・

*専修大学文学部兼任講師

フナイン (Ishāq ibn Ḥunayn, 910年没)²や甥のフバイシュ・ブン・ハサン (Hubaysh ibn al-Ḥasan, 9世紀末に没)³など有名な翻訳者たちが含まれている。この翻訳者集団もフナインと同様に、主にギリシア科学や哲学の文献をシリア語およびアラビア語へ翻訳した。特にガレノス著作については、当時入手可能であった作品のほぼ全てのものが彼らの活動を通じてイスラーム世界に伝わったとされる。

『書簡』はフナインが彼の支援者の一人である [アブー・ハサン・]アリー・ブン・ヤフヤー (Abū al-Ḥasan ‘Alī ibn Yaḥyā, 888/9年没)⁴の依頼を受けて、ガレノス著作のシリア語およびアラビア語翻訳についての情報をまとめた小著である。序文によれば、フナインがこの依頼に応えたのは蔵書没収の憂き目に遭った後であり、彼はガレノスの『自身の著作について』(*De libris propriis*)以外のガレノス著作を所有していなかった。そのため、この書簡に記されている情報は彼の記憶に基づいたもので、いくつかのガレノス著作については情報が曖昧である。しかしそれでも、『書簡』はガレノス著作の翻訳について詳細な情報を記録している。フナインは『書簡』の中で、ガレノス著作の全体の数、各々の題名、目的、巻数、各巻の内容、シリア語およびアラビア語への翻訳の有無、翻訳者、翻訳の依頼者といった情報だけでなく、当時ギリシア語の写本が発見されなかったガレノス著作にも触れており、9世紀のイスラーム世界と周辺地域におけるガレノス研究の状況に関する第一級の資料となっている。後代の文献録、たとえばイブン・ナディーム (Ibn al-Nadīm, 990/5/8年没)の『目録』(*al-Fihrist*)⁵やイブン・アビー・ウサイビア (Ibn Abī Uṣaybi‘a, 1270年没)の『医者の子孫の諸世代の情報源』(*‘Uyūn al-anbā’ fī ṭabaqāt al-aṭibbā’*)⁶もこの記述に依拠しているため、『書簡』はガレノス著作の伝承を明らかにするためには不可欠である。

また、『書簡』の中でフナインは自身の翻訳における習慣として、該当著作のギリシア語写本を複数集めてそれらを校合し、まず底本となるテキ

ストを決定してから翻訳を行っていたと述べている。手書きで複写されていた写本にはテキストの異同が見つかるため、我々は現在でも古典の文献を利用する際にはいくつかの写本を比較して、著者が書いたであろう本来の文章を導き出している。この記述からは、フナインもこれと同様の作業を行っていたことが分かり、彼らの翻訳活動は高い水準にあったと評価されている。この他にも、キリスト教徒の医者にはシリア語の、ムスリムの要人にはアラビア語の翻訳を提供したことや、古代末期アレクサンドリアでの医学教育の事情も読み取ることができる。

『書簡』は元々シリア語で書かれ（現存しない）、後にアラビア語版が執筆された。さらにアラビア語版は少なくとも一度改訂されており、著者の没後にも弟子たちによる追記がなされた。『書簡』の現存する写本は2点が知られている。一つは、MS Istanbul, Ayasofya 3631（ヒジュラ暦7/8世紀〔西暦13世紀〕、以下A写本）、もう一つはMS Istanbul, Ayasofya 3590（年代不明、以下B写本）である。B写本はA写本より古い版であるが、B写本自体がフナインによって既に改訂された第2版以降の版であることが分かっている⁷。2021年現在、本書の校訂版は4点出版されている⁸。本翻訳はそれらのうちA写本に依拠して作成された Bergsträsser 版に基づき、同校訂者の修正⁹を加えた本文から作成した（以下底本）。また、本書の校訂版以外に、B写本に基づくと考えられる別系統のガレノス著作リストが伝えられている¹⁰。

翻訳

『著者の』知る限りガレノスの著作のうち翻訳されたものと翻訳されていない幾つかのものについての、アリー・ブン・ヤフヤーへの書簡』

あなた〔アリー・ブン・ヤフヤー〕は¹¹——神があなたを敬いますように——先人たちによる医学の書物のうち必要なものの一覧、それら各々の

目的の説明、各書物の巻数、それらの各巻にある学問の領域が集められているような書物が必要であると述べた。[最後のものは、]それら領域の各々を考察する必要がある際に、探求者へ供給することが容易になるように、またそれがどの書物に、そのどの巻に、その巻のどの場所に見つかるのかを理解できるようにするためである。あなたは私に、あなたのためにこの[仕事を]引き受けるよう頼んだ。そこで私はあなたに——神があなたを助けますように——、私の記憶はそれらの書物の全てを網羅できないと伝えた。というのも、私は収集していた[書物の]全てを失ってしまったからである¹²。また、あるシリア人がかつて私に、私が書物を失った後で、これと同様のこと、特にガレノスの著作に関することを頼み、それらの書物のうち私や他の者がシリア語やアラビア語に翻訳したものについて説明するよう求めた。そこで私はその人のためにシリア語で書物を書き、その中では私に執筆を頼んだとき彼が意図していたことに従った。あなたは私に——神があなたを敬いますように——、この書物をあなたのために早急に翻訳するようにして、神がかの[シリア人に]相応しいこと、つまりそれらの書物があなたのおかげで返却されることを叶えてくださるよう頼んだ。そして、私とその書物でガレノスの著作について述べたことから漏れていることがあればそれを、また先人たちによる医学の書物のうち我々が[その執筆の後で]見つけた他のものについての記述を付け加えるよう頼んだ。神が望めば、私はあなたが頼んだこのことを行うだろう。

神があなたを尊重されますように。この書物を始める最初のもの、かの人物の名前を呼び、彼が頼んだことを説明することである。私は言った。あなたは私に、あなたのためにガレノスの著作について、それらがどれほどあるのか、それらが何によって知られているのか、それらの各々の目的は何か、それぞれにどれほどの巻があるのか、それらの各巻で何が説明されているのかを説明するよう頼んだ。そこで私はあなたに、ガレノスがこれに従った著作を執筆し、その中で彼の著作の記述を行い、それを『ピナ

クス』(*Finaks/Pinax*)と名付けたことを教えた。私はこれを『目録』(*Fihrist*)と翻訳した。また、ガレノスが別の巻を執筆し、そこで彼の著作を読むべき順番を説明したことを教えた。また、ガレノスの著作についての知識は私から求めるよりガレノスから求めるほうが適切であることを教えた。あなたはこれに答えて言った。君が説明した通りだとしても、我々や、シリア語やアラビア語で書物を読む人々のうちでこの目的をもつ人々に、これらの著作のうちシリア語とアラビア語へ翻訳されたものと、翻訳されていないものを知らせる必要がある。また、その翻訳が私以外ではなく私に任されたもの、その翻訳が私以外に任されたもの、その翻訳を私以外が先にしており、改めて私が翻訳あるいは改訂したものについて[知らせる必要がある]。また、その翻訳が私以外に任された著作のそれぞれの翻訳が誰に任されたのか、それら翻訳者たちの各々がもつ翻訳の能力の程度、それが誰のために翻訳されたのか[知らせる必要がある]。また、その翻訳が私に任されたそれらの著作の各々を私が誰のために翻訳したのか、私がそれをどのような年齢で翻訳したのか[知らせる必要がある]。なぜなら、この両者を知ることは必要な事柄だからである。というのも、翻訳は翻訳者の[該当の]書物に対する能力とその翻訳が宛てられた者の能力に応じたものだからである。また、ギリシア語の写本が見つかっているがこれまで翻訳されていないのはどの著作か、その写本が見つかっていないあるいはその一部しか見つかっていないのはどの著作か[知らせる必要がある]。というのも、これは既に[写本が]見つかっているものの翻訳に努めさせ、見つかっていないものを探求させるために必要な事柄だからである。

あなたが告げたこれらのことを私に告げてきたとき、あなたがその言葉において正しいこと、またあなたが私に呼びかけた事柄は私やあなたや多くの人々に共通して利益があることを私は知った。しかし私はあなたが頼んだことに抗って、先延ばしにしようとして長い間躊躇していた。それは、私が分別がつくようになった後で、遍歴した国々の全てから、人生をかけて

一冊一冊集めた書物の全てを失ったからである。私はそれらの全てを失い、私のもとは先ほど述べた書物、つまりガレノスが彼自身の著作について一覧を述べたもの以外残っていない。あなたが頼みを急かしたので、私が必要としていたそのための道具を失っていたにもかかわらず、私がこの分野について記憶していることにあなたが満足し喜ぶと考えた上で、あなたが頼んだことに応えなければならなかった。あなたの要求に対して私が望み得る天の助けを頼りながら、あなたが頼んだ通り私にできる限り言葉を縮め、それらの著作について私が記憶している全てのことを語って、これを始めよう。私は、先ほど述べた二冊の著作について知る必要があることの説明から話を開始しよう。

1. ガレノスが『ピナクス』(*Fīnaks/Pinax*) と呼び、自身の著作の記述を列挙した著作 [*De Libris propriis*, XIX 8-48; Sezgin, 78, no.1; Ullmann, 35, no. 1]¹³

これは二巻である。彼は第一巻で医学の著作を述べ、第二巻で論理学、哲学、修辞学、文法の著作を述べた。我々は、一部のギリシア語写本ではこれら二巻が一巻であるかのように繋がられているのを見たことがある。この著作における彼の目的は、彼が執筆した著作について、その各々の目的、それを執筆した理由、誰のために執筆したか、どの年齢で〔執筆した〕かを説明することである。

私以前にこれを、斑点のある人として知られるアイユーブ・ルハーウィー (*Ayyūb al-Ruhāwī*)¹⁴がシリア語へ翻訳した。そして私はこれを、医師ダーウード (*Dā'ud al-Mutaṭabbib*)¹⁵のためにシリア語へ、アブー・ジャアファル・ムハンマド・ブン・ムーサー (*Abū Ja'far Muḥammad ibn Mūsā*)¹⁶のためにアラビア語へ翻訳した。ガレノスはこの著作において彼の全著作を記述しきらなかったため、私は〔元々の〕二巻に小さな第三巻を追加して、ガレノスがこの著作において彼の著作のいくつかを記述しなかったことを

証明し、私が見て読んだ多くのものを数え上げ、彼がそれらを記述しなかった理由を説明した。

2. 彼が『自身の著作を読む順序について』（*Fī Marātib qirā'at kutubi-hi*）と題した著作 [*De Ordine librorum propriorum*, XIX 49–61; Sezgin, 79, no. 2; Ullmann, 35, no. 2]

これは一巻である。これにおける彼の目的は、彼の著作のうち最初のものから最後のものまで一冊ずつ読むときに、どのように順序立てるべきかを教えることである。

この一巻を私はシリア語には翻訳しておらず、我が息子のイスハークがブフティーシューウ（*Bukhtīshū*¹）のために〔シリア語に翻訳した〕。アラビア語には、私はアブー・ハサン・アフマド・ブン・ムーサー（*Abū al-Ḥasan Aḥmad ibn Mūsā*）¹⁷のために翻訳した。私以前にこれを翻訳した人を私は知らない。

3. 『学派について』（*Fī al-Firaq*） [*De Sectis ad eos qui introducuntur*, I 64–105; Sezgin, 79, no. 3; Ullmann, 38, no. 1]

この著作は一巻である。彼はこれを初心者向け（*ilā al-muta'allimīn*）に書いた。これにおける彼の目的は、類において異なる三つの学派¹⁸の各種が、主張を基礎づけて議論するために、また対立する人々に反論するために語ることを説明することである。私が「類において異なる」と限定したのは、これら三学派のそれぞれに種において異なる別の学派があるからである。医学の道に入った者はそれら〔三学派の下位分派〕の仲間の発言を、それらの〔類の〕各種類が公言することと、それらのうち真理と虚偽を知る方法を熱心に学んだ後で知ることができる。ガレノスがこの巻を執筆したのは、彼が三十歳頃かその少し後、初めてローマに行った際である。

私以前にこれをイブン・サフダー（*Ibn Saḥdā*）¹⁹と言われるカルフ

(Karkh) 出身の人物がシリア語に翻訳しているが、これは翻訳として貧弱である。そして私は、二十歳頃かその少し後で、ジュンディーサーブール (Jundī Sābūr)²⁰の医師サブリーシューウ・ブン・クトルブ (Sabrīshū‘ ibn Qutrub)²¹のために、欠陥の多いギリシア語の写本一点から [シリア語に] 翻訳した。そしてその後、私が四十歳かそこらの頃、我が弟子のフバイシュがその改善を私に頼んだ。これは、ギリシア語のその写本が数多く集まった後である。そこで私はそれらの写本を互いに校合し、そのうち一つの写本を訂正して、そしてそれをシリア語版と校合して、[シリア語版を] 訂正した。私が翻訳する全てのものにおいてこのようにするのが私の習慣である。そしてその数年後、私はこれをアブー・ジャアファル・ムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

4. 『医術』 (*Fī al-Ṣinā‘a al-ṭibbīya*) [*Ars medica*, I 305–412; Sezgin, 80, no. 4; Ullmann, 45, no. 38]

この著作もまた一巻である。ガレノスはこれを初心者向けとは題さなかった。なぜなら、これを読むことによる効果は熟練者を除いた初心者に特有ではないからである。これにおけるガレノスの目的は、医学の総論全体を簡潔な言葉で説明し、それが初心者と熟練者に有用となるようにすることである。初心者にとっては、概略として医学の総論全てを想像の中で前もって思い描き、そしてその後で一部分ずつ、その解説、その要約、その論証を、彼がそれについて長々と解説している著作から学ぶことができるようにである。熟練者にとっては、長い議論を既に読んで知っているものの全体の備忘録となるようにである。古代にアレクサンドリアにおいて医学を教えていた教師たちは、この著作を『学派について』[3]の後に並べた。そしてこれの後に『初心者のための脈について』[5]を並べ、そしてその後に『グラウコンへの病気の治療について』[6]二巻を並べた。彼らはこれらを五巻から成る一冊の書物のように仕立て、「初心者のため

の』という共通の題名をつけた。

この巻、つまり『医術』のシリア語への翻訳は数多くある。それらのうちラース・アイン (Ra's al-'ayn) のセルギオス (Sergius)²²は翻訳に長ける前に [これを翻訳した]。またイブン・サフダーやアイユブ・ルハーウィーが [翻訳した]。私はこれを後に、医師ダーウードという理解に優れて学習に熱心な人物のために翻訳した。これを翻訳したとき、私は三十歳頃の若者であり、私自身や私が所有する書物の中に数多くの適切な知識が集まっていた。私はこれをアブー・ジャアファル・ムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

5. 『テウトラスへの脈拍について』 (*Fī al-Nabḍ ilā Ṭūtharan*)
 [*De Pulsibus ad tirones*, VIII 453-492; Sezgin, 81, no. 5;
 Ullmann, 44, no. 32]

この著作は一巻である。ガレノスはこれを『テウトラス (Teuthras) とその他の初心者への脈拍について』 (*Fī Nabḍ ilā Ṭūtharan wa-ilā sā'ir al-muta'allimīn*) と題した。これにおける彼の目的は、初心者が必要とする脈拍についての知識を説明することである。彼はまず脈拍の種類を数え上げるが、その全てではなく、それらのうち初心者が理解できるものを述べている。そしてその後で、脈拍を変化させる原因について、自然的なもの、自然的でないもの、自然から外れたものを説明している²³。ガレノスがこの巻を執筆したのは、『学派について』 [3] を執筆した時期である。

この巻をイブン・サフダーがシリア語に翻訳した。そして私は、『医術』を翻訳した後で、サルマワイヒ (Salmawayh)²⁴のために、サルマワイヒの本性的理解力、書物を読む経験とそれらへの関心に応じて、これを翻訳した。私が彼のために訳したものの全体を正確に洗練させることに、私の熱意は大量に注がれた。そしてその後で、私はこれをアブー・ジャアファル・ムハンマド・ブン・ムーサーのために、『学派について』 [3] および『医

術』[4]と共に、アラビア語に翻訳した。

6. 『グラウコンへ』 (*Ilā Ighlawqun*) [*Ad Glauconem de methodo medendi*, XI 1-146; Sezgin, 82, no. 6; Ullmann, 45, no. 40]

この著作は二巻である。ガレノスはこれを『グラウコン (Glaucōn) への病気の治療について』 (*Fi Mudāwāt al-amrād ilā Ighlawqun*) と題し、「初心者向け」とは題さなかった。しかし、私が少し前で語ったように、アレクサンドリアの人々はこれを初心者向けの著作に数え入れた。これにおけるガレノスの目的は、起こることが多い病気の治療を簡潔な言葉で、彼の医学における業績を見て驚嘆し、この著作を書くように求めた哲学者たる人物 [グラウコン] のために、説明することである。治療者は病気を知らないで治療に到達できないので、彼はその治療の前にそれを知るための徴候を先行させて [説明した]。第一巻では発熱の徴候とその治療を述べているが、その全体を述べるのではなく、起こることが多いものの記述に限定している。この巻は二つに分割されており、彼はこの巻の前半では稀な症状を伴わない発熱を説明し、後半では稀な症状を伴う発熱を説明している。第二巻では腫瘍の徴候とその治療を述べている。ガレノスがこの著作を執筆したのは、『学派について』[3]を執筆した時期である。

私以前に、セルギオスがこの著作をシリア語に翻訳した。これは、彼が翻訳の能力においてある程度長けたがまだその極みに到達していないときである。そして、私はサルマワイヒのために『脈について』[5]を翻訳した後で、彼のためにシリア語へ翻訳した。そして最近、私はアブー・ジャアファル・ムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語へ翻訳した。

7. 『骨について』 (*Fī al-ʿIzām*) [*De Ossibus ad tirones*, II 732-778; Sezgin, 83, no. 7; Ullmann, 40, no. 13]

この著作は一巻である。ガレノスはこれを『初心者のための骨について』

(*Fī al-'Izām li-l-muta'allimīn*) と題し、「初心者向けの」とは題さなかった。なぜなら、彼の「初心者向けの」という言い回しと、「初心者のための」という言い回しには違いがあるからである²⁵。彼が「初心者向けの」と題するときは、彼が教えることを教える上で初心者の方の能力の程度に倣っていること、またその教えの後に同じ分野について「初心者のための」教えがあることを示している。彼が著作を「初心者のための」と題するときは、その著作がその分野についての知識の全体を含んでいるが、それを教えるのは初心者のためであるということを示している。というのも、ガレノスは医学の初心者が、医学の全ての分野より先に解剖学を学ぶことを望んでいるからである。なぜなら、彼によれば、解剖の知識なしに類推的医学 (*ṭibb qiyāsī*) を学ぶことは不可能だからである。この著作におけるガレノスの目的は、個々の骨そのものがいかなる状態にあるのか、それらの他のものとの繋がりがいかなる状態にあるのかを説明することである。ガレノスがこれを執筆したのは、他の初心者向けの著作を執筆した時期である。

これをセルギオスがシリア語に翻訳したが、質の悪い翻訳である。そして、私は数年前にユーハンナー・ブン・マーサワイヒ (*Yūḥannā ibn Māsawayh*)²⁶のために翻訳した。私は極めて明解で明瞭なかたちでその意味を正確に翻訳することを意図した。というのも、この人物は明瞭な言葉を好み、それを求め続けていた人物だからである。また私はかつてこれをアブー・ジャアファル・ムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

8. 『筋肉について』 (*Fī al-'Aḍal*) [*De Musculorum dissectione*, XVIIIb 926-1026; Sezgin, 84, no. 8; Ullmann, 40, no. 13]

この著作は一巻である。これをガレノスは「初心者向けの」とは題さなかった。しかし、アレクサンドリアの人々はこれを初心者向けの数々の著作に入れた。彼らはこれら二巻 [『骨について』 [7] および『筋肉について』

て]] に、ガレノスが初心者向けに書いた別の三巻、つまり『神経の解剖について』[9]、『脈打たない血管の解剖について』[10]、『脈打つ血管の解剖について』[10]を合わせて、それを五巻から成る一冊のようにして、『初心者向けの解剖について』(*Fī Tashrīḥ ilā al-muta'allimīn*)と題した。これにおけるガレノスの目的は、器官の各々にある筋肉全てについて、それはいくつか、どのような筋肉であるか、それぞれがどこから始まるか、それらの機能は何かを、極めて正確に説明することである。

『骨について』[7]のところで私があなたのためにガレノスとセルギオスと私に関して説明したことの全てを、この著作についても理解せよ。ただし、私はこれまでこれをアラビア語に翻訳していない。フバイシュ・ブン・ハサンがムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

9. 『神経について』(*Fī al-'Aṣāb*) [*De Nervorum dissectione*, II 831-856; Sezgin, 85, no. 9; Ullmann, 40, no. 13]

この著作もまた一巻であり、彼はこれを初心者向けに書いた。これにおけるガレノスの目的は、いくつの神経対が脳と髄から生えているか、それはどのような神経か、それぞれがどのように、どこで分岐するか、それらの機能は何かを説明することである。

この著作についての話は、『筋肉について』[8]の話と同様である。

10. 『血管について』(*Fī al-'Urūq*) [*De venarum arteriarumque dissectione*, II 779-830; Sezgin, 85, no. 10; Ullmann, 40, no. 13]

この著作はガレノスにとっては一巻である。彼は脈打つ血管と脈打たない血管²⁷を説明して初心者向けに書き、『アンティステネス (Antisthenes) へ』と題した。しかし、アレクサンドリアの人々はこれを二巻、つまり脈打たない血管についての一巻と脈打つ血管についての一巻に分割した。こ

れにおけるガレノスの目的は、肝臓からいくつの血管が生えているか、それはどのような血管であるか、それぞれがどのように、どこで分岐するか、また心臓からいくつの動脈が生えているか、それはどのような動脈であるか、それぞれがどのように、どこで分岐するかを説明することである。

これについての話は、先に述べた諸巻についての話と同様である。私はその全体からの抜粋を作った。またムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

11. 『ヒポクラテスの見解による元素について』 (*Fī al-Uṣṭuquṣāt ‘alā ra’y Buqrāṭ*) [*De Elementis ex Hippocrate*, I 413-508; Sezgin, 86, no. 11; Ullmann, 38, no. 4]

この著作もまた一卷である。これにおけるガレノスの目的は、生成消滅し得る物体、つまり動物の身体、植物、地中で生まれる物体の全てが、四つの元素、つまり土、水、空気、火から複合されているということ、またこれらが人間の身体にとって遠くにある第一の元素であること、人間やその他の血液をもつ動物の身体を成り立たせている近くにある第二の元素が四つの体液、つまり血液、粘液、二つの胆汁であることを説明することである。この著作は、『治療法について』[20]を読む前に読む必要がある著作の一つである。

私以前にこれをセルギオスが翻訳したが、彼はこれを理解しておらず、[その翻訳を] 駄目にした。そして、私はブフティーシューウ・ブン・ジブリール (*Bukhtūshū‘ ibn Jibrīl*)²⁸のために、細心に正確にシリア語に翻訳した。私のこの翻訳と、私がこの人物のために翻訳したものの大半は、青年期の終わりの時期のものであり、同様にしていた。そして、私はこれをアブー・ハサン・アリー・ブン・ヤフヤーのためにアラビア語に翻訳した。

12. 『混質について』 (*Fī al-Mizāj*) [*De Temperamentis*, I 509–694; Sezgin, 87, no. 12; Ullmann, 39, no. 5]

この著作をガレノスは三巻で作った。最初の二巻では動物の身体の混質の種類を説明しており、それはいくつか、どのような種類であるかを証明し、それぞれを示す徴候を説明している。第三巻では薬品の混質の種類を述べており、それはどのように試して知られるかを証明している。この巻は、後で述べる『薬品の力について』[53]と繋がっている。この著作もまた『治療法について』[20]を読む前に読む必要がある著作の一つである。

この著作をセルギオスが翻訳した。私はこれを『元素について』[11]と共にシリア語に翻訳した。そしてその後で、イスハーク・ブン・スライマーン (Ishāq ibn Sulaymān)²⁹のためにアラビア語に翻訳した。

13. 『自然の能力について』 (*Fī al-Quwā al-ṭabīʿiyya*) [*De Naturalibus facultatibus*, II 1–204; Sezgin, 88, no. 13; Ullmann, 40, no. 11]

この著作もまた三巻で作られた。これにおけるガレノスの目的は、身体の統御が三つの自然的能力、つまり妊娠力、成長力、栄養力によること、妊娠力は二つの力、その一つは精液を変化させ変容させ、部分が等しい器官がそこからできるようにするものであり、もう一つは部分が等しい器官を、複合器官のそれぞれに必要な形状、位置、量、数で組み合わせるものであること、栄養力には四つの力、つまり吸引力、保持力、変化力、排出力が奉仕することを証明することである³⁰。

この著作をセルギオスがシリア語に、悪いものだが翻訳した。そして、私は十七歳頃の少年であったときに、ジブリール・ブン・ブフティーシューウ (Jibrīl ibn Bukhtīshūʿ)³¹のためにシリア語に翻訳した。私はそれ以前には一冊の書物しか翻訳したことがなかった。これについては後に述べよう。

また私はこれを、いくつもの欠陥があるギリシア語の写本から翻訳した。そして、私は賢明になったときに調査し、それらの欠陥を発見して、それらを訂正した。そして、年齢が成熟した後で三度目の調査をし、また別の欠陥を発見して、それらを訂正した。あなたが私のこの著作の翻訳に違う版を見つけてもその理由が分かるように、このことを教えたいと思う。私はこの著作のうち一つの巻をイスハーク・ブン・スライマーンのためにアラビア語に翻訳した。

14. 『原因と症状について』 (*Fī al-'Ilal wa-l-a'rād*) [Sezgin, 89, no. 14; Ullmann, 42, no. 22]

この著作は全体で六巻である。これは『治療方法について』[20]の前に読む必要がある諸巻の一つである。ガレノスはこれらを一冊の書物に合わせず、一つの題名を付けなかった。しかし、アレクサンドリアの人々はこれらを合わせて、一つの題名、つまり『原因の書』(*Kitāb al-'Ilal*)を付けた。彼らはそこに含まれるもののうち最も多いものによってこの著作を呼んだようである。シリア人たちはこの著作に、必要なものから遠くて不足する題名を付け、『原因と症状について』と呼んだ。もし彼らが完全な題名を意図していたならば、「原因と症状」と共に「病氣」を述べるべきであった。ガレノスはこれら六巻のうち最初の巻を『病氣の種類について』(*Fī Aṣnāf al-amrād*) [*De Morborum differentiis*, VI 836-880]と題した。彼はその巻において、病氣の類がいくつあるかを説明し、それらの類をその最後の種に至るまで種に区分した。また第二巻を『病氣の原因について』(*Fī Asbāb al-amrād*) [*De Causis morborum*, VII 1-41]と題した。これにおける彼の目的はその題名に合致している。そこでは、病氣のそれぞれにいくつの原因があるか、それがどのような原因であるかを説明している。またこれら六巻のうち第三巻を『症状の種類について』(*Fī Aṣnāf al-a'rād*) [*De Symptomatum differentiis*, VII 42-84]と題した。そこでは、症状にいくつ

の類と種があるか、それがどのような症状であるかを説明している。また残りの三巻を『症状の原因について』(*Fī Ashbāb al-a'rād*) [*De Symptomatum causis*, VII 85-272] と題した。ここでは、症状のそれぞれを作る原因はいくつあるか、それがどのような原因であるかを説明している。

この著作をセルギオスがシリア語に二回、一回目は彼がアレクサンドリアの学校で学ぶ前に、二回目はそこで学んだ後に翻訳した。そして、私はこれを青年の終わりの時期にプフティーシューウ・ブン・ジブリーールのためにシリア語に翻訳した。またフバイシュがこれら六巻をアブー・ハサン・アリー・ブン・ヤフヤーのためにアラビア語に翻訳した。

15. 『体内器官の病気を知ることにについて』 (*Fī Ta'arruf 'ilal al-a'dā' al-bā'ina*) [*De Locis affectiis*, VIII 1-452; Sezgin, 90, no. 15; Ullmann, 41, no. 21]

この著作をガレノスは六巻で作った。これにおけるガレノスの目的は、体内の器官に病気が生じたときにその状態と、それらに生じる病気がどのような病気であるかを示す徴候を説明することである。彼は第一巻と、第二巻の一部で、病気とその場所を知るための共通する方法を説明した。第二巻ではアルキゲネス (Archigenes)³²がこの目的を求めて辿った道の誤りを曝いた。そして第二巻の残りと続く四巻で、体内の器官とその病気の器官ごとの記述を、脳などを初めとして開始し、さらに続けて、疾患があるときにそれらの各々を示す徴候について、その疾患はどのように知られるかを説明して、その最後で終えた。

この著作をセルギオスが二回、一回はカルフ (Karkh) の主教テオドロス (Theodorus)³³のために、一回はイリシャア (Ilīsha')³⁴と言われる人物のために翻訳した。プフティーシューウ・ブン・ジブリーールが私にそれを校閲し、欠陥を改善するよう頼んだので、私は翻訳 [し直す] のがより良くより容易であると彼に教えて、これを行った。書記たちは私が改善した

箇所の洗練が分からず、各々がそれらの箇所を自身の能力の程度で洗練した。それゆえこの著作は我々のこの日々まで、完全に正確でも正常でもないままであった。私はずっとこれを再び翻訳することを気にかけていたが、それ以外のもので忙しかった。タイフリーーとして知られるイスラエール・ブン・ザカリーヤー (Isrā'īl ibn Zakariyā al-Tayfūrī)³⁵が再翻訳を私に頼んだので、私はこれを翻訳した。またフバイシュがアフマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

16. 『脈拍について』 (*Fī al-Nabḍ*) [Sezgin, 91, no. 16; Ullmann, 43, no. 31]

この著作をガレノスは十六巻で作り、四部分に、各部四巻ごとに分割した³⁶。第一部は『脈拍の種類について』 (*Fī Aṣnāf al-nabḍ*) [*De Pulsuum differentiis*, VIII 493-765] と題した。これにおける彼の目的は、脈拍の第一の類はいくつあるか、それはどのような類であるか、それぞれが最後の種で終わるまでどのように種に分かれるかを説明することである。この部の第一巻では必要となる脈拍の類と種の説明についての概論が意図されており、彼はここにその全体を集めた。この部の残りの三巻では、脈拍の類と種およびその定義についての議論と研究のみを扱っている。そのため、この部のうち第一巻を読むことは特に必要であるが、この部の残りの三巻を読むことは特に必要ではない。そのため、第一部の第一巻を読んで、この部の全体をそれだけに限定して、その後この著作の第二部を読み始めても許される。ガレノス [自身が] このことを、また彼が脈拍の類と種について必要な知識の全てをこの第一巻に集めることを意図したのは私が説明したこの理由のためであることを証明している。第二部は『脈拍を知ることについて』 (*Fī Ta'arruf al-nabḍ*) [*De Diagnoscendis pulsibus*, VIII 766-961] と題した。これにおける彼の目的は、脈拍の各種類を血管の触診においてどのように知るか——例えば大きな脈と小さな脈をどのように知る

か、速い脈と遅い脈をどのように知るか、彼は他の種類についてもこれと同様に告げる——を説明することである。第三部は『脈拍の原因について』(*Fi Asbāb al-nabḍ*) [*De Causis pulsuum*, IX 1-204] と題した。これにおける彼の目的は、脈拍の各種類がどのような原因によるか——例えば大きな脈がどのような原因によるか、速い脈がどのような原因によるか、残りの脈の各種類がどのような原因によるか——を説明することである。第四部は『脈拍からの予後について』(*Fi Taqdimat al-ma'rifa min al-nabḍ*) [*De Praesagitione ex pulsibus*, IX 205-430] と題した。これにおける彼の目的は、脈の各種類から——つまり大きな脈、小さな脈、速い脈、遅い脈、他の脈の種類から——予見をどのように導き出すかを説明することである。

この著作をセルギオスがシリア語に七巻分、最初の三部から一巻ずつ、つまり〔第一部から第三部の〕三部それぞれの第一巻と、最後の部の四巻を翻訳した。彼が教えを受けたアレクサンドリアの人々が考えたように、彼は第一部のうち第一巻を読み、それだけに限定しようと考えた。ガレノス〔自身が〕言ったように。なぜなら、他の部の場合と同様に、それがこの部でガレノスが意図したことのための知識の全てを含んでいるからである。この点において彼らの誤りは大きい。ただし、アレクサンドリアの人々は最初の三部のそれぞれを一巻に限定したのと同様に、第四部についても第一巻に限定した。そのため我々は、これらの四巻だけをもつギリシア語の多くの写本を見つけた。これらはそれら四部から選ばれ、並べて筆写されたものである。また我々は『脈拍について』の解説を意図した注釈者たちがこれらの四巻のみを解説し、そうして自らの価値を下げたのを見つけた。かのラアス〔・アイン〕の人〔セルギオス〕については、彼らより正解に近いことをした。彼は当時からこのことに気づいており、第四部の他の巻〔第二巻から第四巻〕を読む必要があることを感じて、これの全てを翻訳したのである。そして、アイユーブ・ルハーウィーはジブリール・ブン・ブフティエーシューウのために残りの七巻を翻訳した。私はこの著作の

全てを数年前にユーハンナー・ブン・マーサワイヒのためにシリア語に翻訳し、その明快さとその表現の美しさに極めて気を配った。また私はこの著作の第一巻を、ムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。この著作の残りについては、私が翻訳したシリア語版からの翻訳をフバイシュに任せた。フバイシュは生得の理解力をもっていて、翻訳において私の方法に倣おうとしている人物である。ただし私は、彼の配慮は彼の本性にそぐわないと思っている。この著作は予知についての〔著作に〕数えられる。

17. 『発熱の種類について』 (*Fī Aṣnāf al-ḥummayāt*) [*De Febrium differentiis*, VII 273-405; Sezgin, 94, no. 17; Ullmann, 42, no. 24]

この著作は二巻で作られた。これにおける彼の目的は、発熱の類、種、徴候を説明することである。彼は第一巻ではその類のうち二つの類、一つは精気に生じる類、もう一つは堅い〔器官〕として知られる根本的器官³⁷に生じる類を説明し、第二巻では腐敗したときに体液に生じる第三の類を説明した。

この著作をセルギオスが翻訳したが、これは称讃できる翻訳ではない。私は最初に、ジブリール・ブン・ブフティーシューウのために少年の頃に翻訳した。これは私がシリア語に翻訳したガレノスの著作のうち最初の著作である。そして、年齢が成熟した後でそれを調査して欠陥を見つけ、私が息子のための版を欲していたときに、それらを細心に改善し訂正した。また私はアブー・ハサン・アフマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語にも翻訳した。

18. 『分利について』 (*Fī al-Buḥrān*) [*De Crisibus*, IX 550–760; Sezgin, 95, no. 18; Ullmann, 43, no. 29]

この著作をガレノスは三巻で作った。これにおける彼の目的は、分利があるか否かを人が前もって知るに至るのはどのようにしてか、[分利が]あるなら、それがいつ、何によって起こり、どのようなものに終着するかを説明することである。

これをセルギオスが翻訳した。私はユーハンナー・ブン・マーサワイヒのためにそれを何年か前に改善し、徹底的に訂正した。また私はムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語にも翻訳した。

19. 『分利の日について』 (*Fī Ayyām al-buḥrān*) [*De Diebus decretoriis*, IX 761–941; Sezgin, 96, no. 19; Ullmann, 43, no. 30]

この著作もガレノスは三巻で作った。この最初の二巻における彼の目的は、強さにおける[分利の]日々の状態の違い、どのような日に分利が生じて、どのような日に生じ得ないのか、分利が生じる場合どのような日に生じる分利が好いものか、どのような日に生じる分利が悪いものか、それに続くものは何かを説明することである。第三巻では、強さにおいて日々のそのような違いが起こる原因を説明することである。

この著作をセルギオスがシリア語に翻訳した。私はそれを、先の著作[18]を改善すると共に改善した。また私はこれをムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。この著作と先の著作は予知についての[著作]に数えられる。

20. 『治療方法について』（*Fi Hilat al-bur'*）[*De Methodo medendi*, X 1-1021; Sezgin, 96, no. 20; Ullmann, 45, no. 39]

この著作は十四巻で作られた。これにおけるガレノスの目的は、病気のそれぞれを類推によってどのように治療するかを説明すること、ただし〔各病気に〕それらの意図を向けて、各病気を治療するものを導出できるような共通の症状に限定し、そのための少しの例を個別の事例から挙げることである。六巻の執筆はヒエロ（Hiero）と言われる人物のためであった。彼は第一巻と第二巻ではこの学問を基礎づける真正な原則について証明し、テッサロス（Thessalus）とその仲間たちが打ち立てた誤った原則を否定した。そして、残りの四巻では器官それぞれにおける連続性の分断³⁸の治療を説明した。そしてヒエロが没したので、ガレノスはこの著作を完成させるのをエウゲニアノス（Eugenianus）がそれを完成させるよう頼むまで中断した。ガレノスは彼のために残りの八巻を執筆した。彼はその最初の六巻〔第七巻から第十二巻〕では部分が等しい器官の病気の治療について説明し、残りの二巻〔第十三巻と第十四巻〕では複合器官の病気の治療について説明した。最初の六巻のうち最初の巻〔第七巻〕では混質の悪化の種類³⁹の全てについて個々の器官に起きたときの治療を説明した。それらは胃に生じることが例となっている。これに続く巻つまりこの著作全体の第八巻では、精気に生じる発熱つまり一日熱の種類の治療を説明した。そして、これに続く巻つまり第九巻では、連続熱の治療を説明した。そして、第十巻では根本的器官に起こる発熱つまり消耗熱の治療を説明し、また浴場の利用について知る必要がある全てのことを説明した。そして、第十一巻と第十二巻では、体液の腐敗から起こる発熱の治療を説明した。第十一巻では稀な症状を伴わないものについて、第十二巻では稀な症状を伴うものについて説明した。

この著作をセルギオスがシリア語に翻訳した。それは最初の六巻の翻訳

であり、彼がまだ不十分で、翻訳に長けていないときであった。そして彼は習熟した後で残りの八巻を翻訳したので、それらの翻訳は最初の〔六〕巻の翻訳より良いものである。サルマワイヒが私にこの第二部の改訂を促し、〔改めて〕翻訳をするより容易で良いことだと懇願した。そこで彼は第七巻の一部をもって私と向き合い、彼はシリア語版を、私はギリシア語版をもち、彼が私に向かってシリア語版を読み、私はギリシア語版と異なるところがあればそれを彼に伝え、彼が改善することにした。ついには事が大きくなり、最初から翻訳した方がより楽で達成しやすく、より整理されたものができるということが彼に明らかになった。彼が私にこれらの巻の翻訳を頼んだので、私はそれを全て翻訳した。これは、我々がマアムーン (al-Ma'mūn [アッバース朝第7代カリフ、在位813-33年]) の遠征中でラッカ (Raqqā) にいたときのことである。彼はそれをタイフーリーとして知られるザカリーヤ・ブン・アブドゥッラー (Zakarīyā' ibn 'Abd Allāh al-Ṭayfurī)³⁹に、彼が平和の街 [バグダード] に移ろうと望んだときに手渡し、そこで [ザカリーヤの] ために筆写させようとした。しかし、ザカリーヤが乗っていた船で火事が起きたため、その本は燃えてしまい、その写本は残っていない。

そして私は二年後に、この著作を最初からブフティーシューウ・ブン・ジブリールのために翻訳した。そのとき私の元には最後の八巻のギリシア語写本が複数あったので、それらを校合し、そのうちの一つの写本を訂正して、私に可能な正確さと美文の限りをもって翻訳した。最初の六巻については、一つの写本しか見つけられず、しかもそれは多くの誤りがある写本であった。そのため、これらの巻を然るべく校閲することができなかった。そして私は別の写本を見つけたので、それらを校合し、可能な限り改善した。もし第三の写本が見つかって三度目の校合ができれば、私としてはより適当である。というのも、この著作のギリシア語写本は少ないからである。これはアレクサンドリアの学校で読まれるものに入っていなかつ

たのである。私が翻訳したシリア語版から、フバイシュ・ブン・ハサンがこの著作をムハンマド・ブン・ムーサーのために翻訳した。そして彼はそれを翻訳した後で、私に最後の八巻を校閲し、見つけた欠陥を改善するよう依頼した。私はそれに応え、それを始めた。

これらを読むことにアレクサンドリアにおける医学教育の場は限られており、人々は私が記述してきたこの順序でそれらを読んでいった。彼らはそれらのうち先立つものを読んで、理解しようと毎日集まっていた。これは、キリスト教徒である我々の仲間たちが今日、ウスクール（Uskūl）として知られる教育の場で、先人たちの著作⁴⁰のうち先立つものを読もうと毎日集まるのと同様である。その他の著作については、私が述べたそれらの著作の訓練の後で各人が個人で読んでいた。これは、我々の仲間が今日先人たちの著作の注釈を読むのと同様である。ガレノスは自身の著作がこの序列で読まれると考えておらず、自身の著作を読むときに『学派について』[3]の後で解剖についての諸著作を先行させた。そのため、私は解剖についての著作を数えることから彼の著作の記述を始め、そして他の著作を次々に、彼が定めた序列と順序に従って続けよう。

[翻訳（2）へ続く]

註

- 1 Cf. G. Strohmaier, “Ḥunayn b. Ishāq,” *Encyclopaedia of Islam, THREE*, 2017-3, 76-83. E. Savage-Smith, S. Swain and G. J. van Gelder, *A Literary History of Medicine: The ‘Uyūn al-anbā’ fī ṭabaqāt al-aṭibbā’ of Ibn Abī Uṣaybi‘a* (Leiden: Brill, 2020) [以下、IAU], vol. 2-1, 464-497, 507; vol. 3-1, 491-531, 541 [8.29, 9.2].
- 2 Cf. G. Strohmaier, “Ishāq b. Ḥunayn,” *Encyclopaedia of Islam, THREE*, 2020-1, 72-75. IAU, vol. 2-1 498-501, 507; vol. 3-1, 531-535, 542 [8.30, 9.3].
- 3 Cf. G. Strohmaier, “Ḥubaysh b. al-Ḥasan al-Dimashqī,” *Encyclopaedia of Islam, THREE*, 2017-4, 115f. IAU, vol. 2-1, 501f., 508; vol. 3-1, 535, 542 [8.31, 9.4].
- 4 Cf. D. Pingree, “Banū Monajjem,” *Encyclopaedia Iranica*, III, 716. ムタワツキル以降のカリフに仕えた人物。フナインたち翻訳者を支援し、豊富な蔵書を持っていたと言われる。

- 5 Ibn al-Nadīm, *Kitāb al-Fihrist*, ed. G. Flügel (Leipzig: F. C. W. Vogel, 1871), vol. 1, 288–291.
- 6 IAU, vol. 2–1, 246–278; vol. 3–1, 239–266 [5.1.37].
- 7 G. Bergsträsser, *Neue Materialien zu Ḥunain ibn Ishāq's Galen-Bibliographie* (Leipzig: Brockhaus, 1932), 52.
- 8 (1) G. Bergsträsser, *Hunayn ibn Ishāq: über die syrischen und arabischen Galen-Übersetzungen* (Leipzig: Brockhaus, 1925); (2) 'A. Badawī, *Dirāsāt wa-nuṣūṣ fī al-falsafa wa-l-'ulūm 'inda al-'arab* (Beirut: al-Mu'assasa al-'Arabīya li-l-Dirāsāt wa-l-Nashr, 1981), 147–179; (3) M. Muḥaqqiq, *Risālat Ḥunayn ibn Ishāq ilā 'Alī ibn Yahyā fī dhikr mā turjima min kutub Jālīnūs: kuhantarīn fihrist dar jahān-i Islām: matn-i 'arabī bā tarjamah-i fārsī* (Tehran: Institute of Islamic Studies, 2001); (4) J. C. Lamoreaux, *Ḥunayn ibn Ishāq on His Galen Translations: A parallel English-Arabic text edited and translated* (Provo, UT: Brigham Young University, 2016). なお、(2) および (3) は Bergsträsser 版の複製であり、(4) は B 写本に依拠している。(4) については、D. Gutas の書評 (“A New “Edition” of Ḥunayn's *Risāla*,” *Arabic Sciences and Philosophy* 28 (2018): 279–284) も見よ。
- 9 Bergsträsser, *Neue Materialien* (注 7 参照)。
- 10 F. Kās, “Eine neue Handschrift von Ḥunain ibn Ishāqs Galenbibliographie,” *Zeitschrift für Geschichte der Arabisch-Islamischen Wissenschaften* 19 (2011): 135–193.
- 11 アラビア語の書物の冒頭に通例見られるバスマラ (「慈悲深く慈愛あまねく神の御名において」) はなく、直接この文章から始まる。
- 12 これはフナインがカリフの廷臣たちの陰謀によって投獄され、財産を没収されたことを指していると思われる (IAU, vol. 2–1, 480–488; vol. 3–1, 511–520 [8.29.16–22])。
- 13 以下、参照の便のために番号を振る。キューン版全集 (C. G. Kühn, *Claudii Galeni opera omnia*, 20 vols. [Lipsiae: Cnoblochii, 1821–33]) に該当する著作が現存する場合はその著作名 (慣例に倣ってラテン語) とその箇所 (収録巻 [ローマ数字] および頁数) と、また F. Sezgin, *Geschichte des arabischen Schrifttums: Band III, Medizin- Pharmazie, Zoologie- Tierheilkunde, bis ca. 430 H.* (Leiden: E. J. Brill, 1970) および M. Ullmann, *Medizin im Islam* (Leiden: E. J. Brill, 1970) の参照箇所を記載する。
- 14 835 年頃没。エデッサのヨブ (Job of Edessa) として知られる東方キリスト教徒の翻訳者で、36 点のガレノス著作をシリア語に翻訳した。翻訳以外にも、自然哲学に関する著作を遺している。IAU, vol. 2–1, 512; vol. 3–1, 547 [9.25].
- 15 850 年頃活躍。医師として活躍した人物であり、ダーウード・ブン・サラールビユーン (Dā'ūd ibn Sarābīyūn) という東方キリスト教徒の医師である可能性が指摘されている。
- 16 873 年没。九世紀に科学の支援者として名声を博したバヌー・ムーサー家 (ムーサー・ブン・シャーキルの息子たち) 三兄弟の一人である。
- 17 九世紀に科学の支援者として名声を博したバヌー・ムーサー家三兄弟の一人である。

- 18 それぞれ教条主義（Δογματικοί/Aṣḥāb al-qiyās）、経験主義（Εμπειρικοί/Aṣḥāb al-tajriba）、方法主義（Μεθοδικοί/Aṣḥāb al-ḥiyāl）を採る三学派を指す。教条主義者たちは理性の行使によって病気の因果関係を導けると考えており、体液説や元素を重要視していた。経験主義者たちは病気の原因に関する理論や解剖学の必要性を否定し、経験によってのみ治療の信憑性が高まると論じて、観察や観察記録によって裏付けられた治療法に頼った。方法主義者たちは原子論に基づき、病気は原子の密集および分散によって生じると考えて、治療の方法を理解すれば十分なため医術は短期間で習得できると主張した。
- 19 詳細不明。
- 20 ジュンディーシャープールや、ゴンデーサープールなどとも言う。サーサーン朝のシャープール一世（在位 241-271 年）によって建設された都市で、古来より学問が盛んであった。イスラム期には医学の都市として知られており、アッバース朝の宮廷は名医をこの都市から召喚していた。
- 21 詳細不明の、翻訳の支援者である。底本には「*Shīrīshū*」と記されているが、修正して読んだ。IAU, vol. 2-1, 515; vol. 3-1, 551f. [9.39].
- 22 536 年没。東方キリスト教徒で、ガレノスやアリストテレスの著作をシリア語に翻訳した人物である。彼らの著作のうち必須書全ての翻訳を企てていたと考えられる。IAU, vol. 2-1, 512; vol. 3-1, 547 [9.24].
- 23 自然的なもの (*tabīʿīya*)、自然的でないもの (*laysat bi-tabīʿīya*)、自然から外れたもの (*khārij ʿan al-tabīʿa*) という区別は、後にラテン語で「*naturales*」「*non naturales*」「*contra naturales*」として知られる医学上の区分となった。簡潔に言えば、一番目は人間の身体の構成要素であり、二番目は人間の身体に影響を与える摂取物や環境を指し、三番目は病気に相当する。
- 24 おそらくサルマワイヒ・ブン・ブナーン (*Salmawayh ibn Bunān*) である。840/1 年没。アッバース朝カリフ・ムウタスィム（第 8 代、在位 833-42 年）の侍医で、自身も医学書を執筆した。IAU, vol. 2-1, 423-433; vol. 3-1, 438-451 [8.20].
- 25 『テウサランとその他の初心者のための脈拍について』[5] も『骨について』も、ギリシア語の題名では共通して「*τοῖς εἰσαγομένοις*」であるため、フナインの語る区別が何に由来するかは不明である。
- 26 857 年没。何人かのカリフに医者として仕えた。伝承によれば、彼の医学の弟子であったフナインは、仲違いのために追放された後でギリシア語を習得して戻ってきて、彼にその実力を認められた。IAU, vol. 2-1, 445-461; vol. 3-1, 465-487 [8.26].
- 27 それぞれ動脈と静脈を指す。
- 28 870 年没。東方キリスト教徒で、医者の名家プフティーシューウ家の一人である。何人かのカリフに医者として仕え、自身も医学書を執筆した。IAU, vol. 2-1, 367-382; vol. 3-1, 370-384 [8.4].
- 29 詳細不明。イサーク・イスラエリ (*Isaac Israeli*, 932/955 年没) というユダヤ教徒の

医者と同名だが、おそらく別人である。

- 30 部分が等しい器官（等質器官）は骨や筋肉など、その一部を取り出しても全体と等しい器官を指す。複合器官はそれら等質器官が複合したもので、手や足やその他臓器など、その一部を取り出すと全体とは異なる器官を指す。
- 31 828年没。東方キリスト教徒で、医者の名家プフティーシューウ家の一人である。何人かのカリフに医者として仕え、自身も医学書を執筆した。フナインにとって早期からの支援者である。プフティーシューウ・ブン・ジブリール（注28）の父親である。IAU, vol. 2-1, 345-367; vol. 3-1, 344-370 [8.3].
- 32 二世紀初頭にローマで活躍した医者であり、治療法や薬品に関する著作で知られた。
- 33 六世紀に活躍。IAU, vol. 2-1, 516; vol. 3-1, 553f. [9.42].
- 34 詳細不明。
- 35 九世紀後半に活躍。アッパース朝の大臣に侍医として仕えていた人物である。IAU, vol. 2-1, 407f.; vol. 3-1, 418f. [8.12].
- 36 すなわち、ガレノス自身の意図では四点の別の著作であった。
- 37 根本的器官は身体の中にある液状のもの以外の、固さや安定性をもつ器官を指す。
- 38 連続性の分断は、骨折や肉離れなど、器官の連続性が断たれることによる病気のカテゴリーの一つである。
- 39 東方キリスト教徒で、マアムーンおよびムウタスィムに仕えた医者。イスライーール・ブン・ザカリーヤー（注35）の父親である。IAU, vol. 2-1, 406f.; vol. 3-1, 416-418 [8.11].
- 40 G. Strohmaier, "Die christlichen Schulen in Bagdad und der Alexandrinische Kanon der Galenschriften: Eine Korrektur in Hunains Sendschreiben an 'Alī ibn Yahyā," *Oriens* 36 (2001), 272f. は、この箇所およびこの後の「al-mutaqaddimīna（先人たち）」の「al-'ahdayni（二つの契約）」への修正を提案している。これに従えば、キリスト教徒たちが読んでいたのは医学書ではなく旧約および新約聖書となる。